弘法さんかわら版

発行編集部
大塚耕平事務所
☎052-757-1955
Kouhei@oh-kouhei.org

皆さんこんにちは。季節は晩秋、すっかり肌寒くなりました。くれぐれもご自愛ください。

★愛染明王は良縁、家庭円満の仏

さて、今年は仏像についてお伝えしているかわら版。今月は**愛染明王(あいぜんみょうおう)**です。

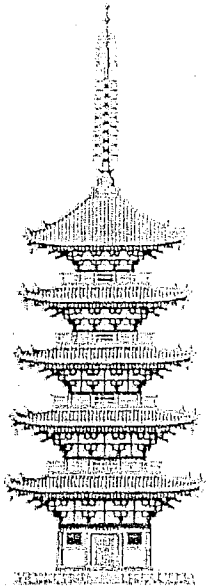
愛染明王は、弘法大師が中国から持ち帰った**「瑜祇経(ゆぎきょう)」**という経典によって初めて日本に伝わりました。

人間は生きている限りずっと**欲、煩悩(ぼんのう)**を持ち続けます。煩悩を捨て去ることが**悟りの境地**ですが、簡単なことではありません。

しかし、その一方で煩悩は**人間のエネルギー**でもあります。煩悩をより深く考え、**生きる意欲**に転換する方向に導いてくれるのが愛染明王です。

愛染という名前のとおり、愛情・情欲をつかさどり、**煩悩即菩提**を象徴しています。

愛染という字から、鎌倉時代以降、**良縁、家庭円満を成就する仏**として特に女性の信仰を集めました。愛染を訓読みにすると「あいぞめ」。これは**「逢い初め」**に通じます。さらに「あいぞめ」を**「藍染」**と解釈し、**織物業の守護仏**としても信仰されています。



★愛染かつら

愛染明王と聞いて、**映画「愛染かつら」**(昭和十三年、**田中絹代・上原謙**主演)を思い出す方も多いでしょう。

「花も嵐も踏み越えて、行くが男の生きる途、泣いてくれるなほろほろ鳥よ、月の比叡を独り行く」は、年配の皆様はよくご存じの**西條八十**作詞、**万城目正**作曲、「愛染かつら」の主題歌**「旅の夜風」**。当時としては驚きの**レコード売上げ百二十万枚**を記録しました。

「愛染かつら」は、愛染明王を本尊とする**自性院**(東京谷中)境内にあった**桂の古木**にヒントを得た作品です。病院の御曹司と看護婦の大メロドラマ。二人が「愛染かつら」と呼ばれる樹に手を添えて愛を誓うシーンからタイトルが生まれました。

★愛染明王の赤いお姿

愛染明王のルーツ(起源)は古代インドの**愛と太陽の神様ラーガ**。したがって、愛染明王は**赤いお姿**が特徴です。

容貌は**一面三目六臂**、つまり顔は一つ、目は三つ、腕は六本。三本の右手には**五鈷杵(ごこしょ)・矢・蓮華**、三本の左手には**金鈴・弓と握りこぶし**を握っています。五鈷杵と金鈴は**無病息災**を祈る法具、弓と矢は**良縁を射る**道具。**蓮華**は**女性の優しさ、握りこぶし**は**男性の力強さ**を表現しています。蓮華は**宝瓶(ほうびょう)**と呼ばれ台座にも彫り込まれています。

表情は先月号でお伝えした不動明王と同じ**忿怒相(ふんぬそう)**＝怒った表情)。頭の上には**獅子の冠**。これらはどんな困難にも屈しない意思を象徴しています。

愛染明王

★四観曼荼羅八十八ヵ所霊場

四国八十八ヵ所霊場には愛染明王を本尊にした札所はありません。しかし、平成元年に元祖霊場に含まれない寺社が集まって新しく誕生した**四国曼荼羅八十八ヵ所霊場**の**七十一番札所、速成山報恩寺(徳島県)**の本尊が愛染明王。この霊場は**地、水、火、風、空の五大道場**を配し、徳島、香川、愛媛、高知を一巡する新しい霊場です。

愛知県内では**赤岩寺(豊橋市)**。国の重要文化財にもなっている愛染明王坐像が本尊になっています。

かわら版第五号と第二十二号でもご紹介しました**荒子・笠寺・竜泉寺・甚目寺**の**尾張四観音**を結ぶ日泰寺参道西側の**四観音道**。四観音のひとつ、**甚目寺観音**にも愛染明王が祀られています。

★次回は孔雀明王

さて、来月号は**孔雀明王(くじゃくみょうおう)**についてお伝えします。明王には珍しく、優しい表情の仏像です。

第2回 弘法さんを語る会

日　時：平成17年12月5日（月）13：00～15：00
テーマ：「弘法大師の教えと覚王山史跡探訪」
場　所：「いち倫」日泰寺境内西側の和風喫茶店
参加費：500円（茶菓代）
講　師：大塚耕平（かわら版執筆者）

お申込は、かわら版配布スタッフにお声かけいただくか、大塚耕平事務所（052-757-1955）までご連絡ください。ご来場をお待ちしています！！

（ご参考）第１回は昨年12月「弘法大師の生涯」